

このニュースは、国土交通記者会、ときわクラブ、TX沿線の各記者クラブ及び報道各社にリリースします。

平成24年6月4日
首都圏新都市鉄道株式会社



首都圏新都市鉄道(株)の平成23年度営業実績

- 1日当たりの輸送人員は**29万人**（前年比2.6%増）
- 営業利益は**4期連続**、経常利益は**3期連続**で黒字を計上

秋葉原とつくばを結ぶつくばエクスプレス（TX）を運営する首都圏新都市鉄道株式会社（代表取締役社長 石井幸男、本社：東京都台東区）では、この度、平成23年度の営業実績がまとまりましたのでお知らせします。

1 つくばエクスプレス（TX）の輸送人員

通期営業6年目である平成23年度の一日当たりの旅客輸送人員は、昨年度の28万3千人から約7千人（2.6%）増加し、約29万人となりました。定期旅客の輸送人員は前年比で2.9%、定期外旅客の輸送人員は2.1%とそれぞれ増加しており、開業以来順調に推移しております。

年度	年間輸送人員	一日当たり輸送人員	一日当たり輸送人員内訳（割合）	
			定期	定期外
平成23年度	10,489万人	290千人	192千人（66%）	98千人（34%）
平成22年度	10,222万人	283千人	187千人（66%）	96千人（34%）
平成21年度	9,779万人	270千人	176千人（65%）	94千人（35%）
平成20年度	9,321万人	258千人	164千人（64%）	94千人（36%）
平成19年度	8,485万人	234千人	146千人（62%）	89千人（38%）
平成18年度	7,069万人	195千人	118千人（61%）	77千人（39%）

（係数は単位未満四捨五入）

平成23年度は、景気低迷による出控えのほか、東日本大震災及び東京電力における計画停電による一部運休、夏季期間中の80%ダイヤでの運行等の影響があり大変厳しい状況でありました。

しかしながら、沿線開発の進行を背景に、TXが行う安全・安定・安心輸送に対する信頼が増したことや、利便性の高いサービスを提供していること等により、旅客輸送人員の増加率は昨年度に比べ鈍化しているものの、5月以降着実に増加し順調に推移してきたことによるものです。

2 決算の概要

旅客輸送人員増等により営業収益は前期に比べ676百万円増加しましたが、営業費が一体化法による固定資産税課税標準額の減免割合縮小により固定資産税が増加したこと等により前期に比べ947百万円増加しました。

この結果、営業利益は前期比271百万円減の2,695百万円となり4期連続の黒字計上、経常利益では前期比で446百万円減の2,183百万円となり、3期連続の黒字計上となりました。

当期純利益は特別損失に災害復旧費等353百万円を計上しましたが、税効果会計による繰延税金資産を見積り計上したことに伴い、その同額を法人税等調整額として計上した結果、前期を上回る2,530百万円となりました。

(単位：百万円)

項 目	平成23年度 (23/4~24/3) (営業日数 366 日)	平成22年度 (22/4~23/3) (営業日数 365 日)
A 営業収益 (うち旅客運輸収入)	36,074 (34,737)	35,398 (34,072)
B 営業費 (うち減価償却費)	33,379 (19,734)	32,432 (19,812)
C 営業利益	2,695	2,966
D 営業外損益	△512	△337
E 経常利益	2,183	2,629
F 特別損失	353	473
G 法人税等	15	15
H 法人税等調整額	△715	-
I 当期純利益	2,530	2,141

つくばエクスプレス(TX)では、平成24年度についても「安全・安定・安心輸送」を最大の経営課題として全社に徹底するとともに、長期的に安定的な経営を目指して、着実な前進を図ってまいります。

※ このニュースは、平成24年6月5日(火)10:00から平成24年7月31日(火)22:00まで、当社ホームページに掲出いたします。